

- 近年の激甚な水害や、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進することを目的として「流域治水プロジェクト」にもとづく取組状況についてのフォローアップ等を行うため雨竜川外地域部会を開催した。(今年度は他の地域部会や石狩川下流域外減災対策協議会と合同開催)

日時：令和6年2月15日(木) 13:30~15:00

開催方法：WEB会議

構成員：北海道開発局(札幌開発建設部)
 气象台(札幌管区气象台、旭川地方气象台)
 北海道森林管理局(空知森林管理署、
 空知森林管理署北空知支署)
 国立研究開発法人森林研究・整備機構
 森林整備センター(東北北海道整備局)
 北海道(空知総合振興局、上川総合振興局)
 滝川市、砂川市、歌志内市、深川市(欠席)、奈井
 江町、上砂川町、浦臼町、新十津川町、妹背牛町、
 秩父別町、雨竜町、北竜町(欠席)、沼田町、幌加
 内町

報告のあった自治体の取組事例

- ・ 出前講座、1日防災学校などの実施
- ・ 外国人への防災情報取得方法や対応について実施
- ・ 市民ボランティアの登録精度の開始
- ・ ハザードマップの更新、配布
- ・ 避難訓練、防災訓練等の実施
- ・ 庁舎を災害拠点として活動が行えるように設備確保
- ・ 防災マネージャーの配置による防災対応力の向上
- ・ 避難所を誰でも開設できる「避難所開設キット」を作成

など

地域部会の様子(WEB開催)



自治体等主な会場



札幌開発建設部

※写真を掲載しているのは参加者(会場)のうちの一部です



滝川市長

- 中学校や高校生が防災を理解し、災害時に適切な行動を取れるようにする出前防災教室を行っている。
- 様々な国の方が住んでおり、国際交流協会のスタッフ等とともに、災害時の情報取得方法や対応等について話し合いを行い、携帯型音声翻訳機を利用して避難所でのシミュレーション等も行った。
- 災害時の対応や避難所開設等にかかる人手不足について、現役で危険を伴わない作業の一部を行う、滝川防災サポーターという市民ボランティアの登録制度を始めた。
- 冬場の長期の停電対策として、避難所での電源確保や災害時の円滑な情報発信手段の確保のための訓練、様々な団体に対する出前講座等、積極的に実施。
- 災害による被害を少しでも抑止していくため、行政だけではなく市民サイドの防災意識の向上も不可欠であり、訓練や研修を積み重ね、これからも継続的に続けてゆく。



砂川市長

- 石狩川・空知川の合流地点に位置しており、雨竜川を含め石狩川の水位が高くなる場所であることから、これまでの情報を基にポンプ設置、稼働の体制を整えている。
- 自然災害を防止するための整備として、市内中小河川の護岸工事を実施。ポンプ等は非常時には開発局のご協力の方をお願いしたい。
- 河川の流れに応じた樹木伐採、環境整備についても引き続き取り組んでいただきたい。



歌志内市長

- 防災ハザードマップを更新して市民への周知、また希望する町内会へ出向いて説明会を開催。職員や市民を対象に、災害を想定した避難訓練等も併せて行っている。
- ここ数年大きな水害がないことから、経験している職員がいないということが非常に問題となっている。これをいかに継承していくかということが、これからの課題。
- 能登半島の地震のような大きな災害が起こっていないということで、起こった際の職員の対応、また住民の皆さんが速やかに移動できるような、訓練をしなければならない。
- 人口減少が非常に激しく、備蓄品の確認等も併せて行わなければならない。



奈井江町長

- 自助と共助の意識の下、南町地区を対象に避難所の開設・運営訓練と、奈井江商業高等学校における1日防災教育で防災訓練等を実施。
- 主な訓練内容として、避難対策班による備蓄品の運搬、地区役員による避難所開設準備を行い、避難者の受入名簿の作成、避難者の誘導等を行った。
- また備蓄している防災資機材の展示説明を行い、併せて奈井江町の防災ハザードマップと避難所運営マニュアルの説明も行った。
- 奈井江商業高校にて1日防災教室を行った。今後も学校や教育委員会、地域と連携して防災関係行事に積極的に取り組み防災意識の向上を図っていきたい。
- 新庁舎の建設工事を行い、災害発生時の災害対策拠点として救援活動、災害普及活動が十分に行えるように設備を確保した。



上砂川町長

代理出席：副町長

- 1日防災学校や地域の要望に応じた防災学習を実施。段ボールベッドの組立や非常食の紹介、災害時に必要な住民対応についての説明を行っている他、関係機関の協力を得て救助要請の手順確認や炊き出し、町民による避難訓練を行い防災意識の高揚を図った。
- 登録制メールや町公式LINEを運用し、町民に必要な情報を伝達するとともに、消防サイレンの吹鳴や町広報車による情報伝達を行っている。
- 防災行政無線が未整備であることから、屋外スピーカーや個別受信機の設置等、情報伝達手段を検討しているが、令和7年度までに整備を終えるよう準備を進めている。
- 今後新たに地域防災マネジャーを配置し、自助・共助・公助、それぞれの対応力を高める等、さらなる減災対策に努める。



浦臼町長

- 自衛隊より派遣された防災マネジャーを配置して専任者を置くことができたので、より細やかで充実した防災体制に取り組んでいる。
- 防災関連の各種計画の見直し、職員の初動対応力の強化、町民の防災意識の高揚、自主防災組織の充実・強化等、地域防災力の強化が課題。
- 石狩川本流の氾濫のみを想定した洪水ハザードマップを内水まで含めたものに更新する必要があると考えている。
- 内水の排水機場が建設後30年近くを経過しているため、大規模な更新に向けた協議や予算化に向けた検討を進めていきたい。



新十津川町長

- 3地区をモデル地区として避難所開設運営研修を実施。避難所を誰でも開設することができる「避難所開設キット」を作成。残りの8行政区、全ての行政区に整備予定。
- 災害拠点病院等2施設で国庫補助を受け、LPガスを使った非常用発電装置を整備した。町の防災計画で福祉避難所にも指定されており、整備費用の一部を支援した。
- 全戸に防災ガイドマップを冊子で配布しているが、ドローンで撮影した写真を使ったパノラマハザードマップを作成し、ホームページに掲載している。



妹背牛町長

代理出席：副町長

- 内水の氾濫を未然に防ぐべく、各排水機場の稼働及び可搬式排水ポンプの定期的な設置により、即時対応可能な準備を整え、被害を最小に食い止めている。
- 河川内の堆積土が流水の妨げになっていることから、河川幅の狭窄による水位の上昇や河川流水の停滞を改善することが、今後の課題。
- 非常時の備えとして地域住民及び関係者による避難訓練や、非常食の試食体験等、災害発生時も慌てることなく対応可能な状況とすべく、年1回の集中訓練を行っている。
- 非常時の情報伝達手段を構築するため、防災無線や個別受信機を導入し、情報伝達アプリの導入を計り、緊急情報の即時伝達と非常時の情報収集に重きを置き、準備を進めている。今後は情報伝達も含めた災害想定による避難訓練も検討、実施する。



秩父別町長

代理出席：副町長

- 河川の浚渫を進めて減災対策としている他、小中学生を対象に1日防災学校を実施して防災意識の啓蒙を図って防災教育を行っている。
- 令和2年度に各世帯に戸別受信機を無償で貸与し情報伝達の整備を行っている。
- 防災ハザードマップを更新して全戸配布を行った。
- 防災訓練を実施しており、11町内会のうち7町内会で自主防災組織が立ち上がっている。減災意識の向上を図るため、全ての町内会で立ち上げをお願いしているところ。
- 常備している備蓄食料、資機材は水害が発生した際に想定される分のみなので見直しが必要と感じているところ。また、専用の保管庫がない状況なので、これらも見直しを行っていく。備蓄品の整備や備蓄保管庫の確保が問題。



雨竜町長

- 役場職員対象にそれぞれの防災・災害対策による避難所開設等の訓練を実施。
- 雨竜川と石狩川の合流地点なので、対象排水機場を常に整備・点検・修繕を行っている。
- 防災備蓄用資材として令和6年に町内各全戸に配置している防災無線の更新を予定。
- 水害を中心とした備蓄の形になっているので、今後は内容の充実を図っていきたい。
- これまで役場職員中心の合同訓練、避難訓練、地域防災訓練だったが、今年は対象を広げて防災訓練を実施する。



沼田町長

代理出席：防災専門員

- 地域防災計画の見直しと防災訓練を実施。
- 石川県の能登半島へ災害対応中で、トイレトレーラーを派遣している。実際の避難所等の状況を確認し、避難所運営マニュアル等の改正を行う。
- 今年度予定されている強靱化計画の見直しに併せて、必要な水防資機材の導入についても計画と合致したものを修正していきたい。



幌加内町長

代理出席：副町長

- 幌加内小学校を会場に、北海道開発局の協力の下、防災学習と降雨体験学習を実施。
- 年1回、行政区長14名と町内会単位で代表を集め、防災教育と意識向上を図る目的で旭川气象台や河川事務所等の方による講演等を行った。
- 役場庁舎2階が避難所になっており非常用電源等の更新等を行う。
- ハザードマップについて新年度で見直しを行い全各戸配布予定。
- 雨竜川の上流部のダムについて国の事業により堰堤の嵩上げ、河川は道の事業で改良が今年度から始まる。これらの改良で災害が少なくなることを期待。



雨竜川外部会長

滝川河川事務所長

- 各自治体さんが行う対策など非常に感謝しております。
- 地域の課題とか魅力向上に向けた取り組みをバックアップするデジタル田園都市国家構想交付金というのがあります。この支援に関しましては河川事務所等へご相談していただければと思います。
- また、タイムライン等も整備や更新、出水期前の訓練が重要と思っております。
- 流域治水としてこの流域内たくさん水田がございまして、田んぼダムというのを取りくんでいるということがあります。現在、寒地土木研究所で、田んぼダムの治水効果など研究中であり、今後フィールドでデータの観測等を行うと聞いていることから、自治体の方や農家の方でデータを取りたいというご相談がありましたら協力していただけると幸いです。